

# れんざい 監査の四季

第8回 鯖江市代表監査委員  
川中清司

## 税が語るきびしい世相

梨むくや 甘き雫の  
刃を垂るる 子規

実り豊かな秋が来しました。すつぽりと抜いた大根の白さとたくましさ  
に、大地の力がみなぎっています。  
しかし、バブル経済がはじけてか  
ら地価は下がり続けています。

「固定資産税はなぜ上がるの」といった疑問の声も聞かれます。

確かに鯖江市の固定資産税の歳入額は、この5年間で2億8千万円増



地価が下落する中心市街地

えて42億円となりました。

実際の地価と課税評価額の間に開きがあり、今まで課税価格が低かった制度を直したためです。

課税の内容をより正確にしようと平成7年に航空写真を撮り、データをコンピュータに取り込むなどの改善が進み、平成9年度からは納税者に対して一筆、一棟の所在地番ごとに評価額や税額の明細書を送っています。

不況は税の世界にも大きな影響を与えています。所得に課税する市民税の総額は、約33億9千万円で昨年より1億3千万円減り、倒産などで滞納額が増えています。

せめていっぶん煙草をふかす。

鯖江市で年に1億4千万本が買われ、たばこ税はなんと3億7千万円。ひと風呂浴びてリフレッシュ、神明苑やラポーゼかわだの利用者は19万3千人を超え、払った入湯税は2千800万円。厳しい世相にも、秋晴れにコスモスが笑っています。